



せい しん つう しん
聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 齊藤 隆浩

第8号 2021年10月29日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)

URL <https://spr-sacred-heart.ed.jp>

FAX 011-612-0980

10月はマリア様の月でした。中1・中2・高3の生徒たちは修養会を経て自分の心と向き合い、考えを深めました。冬の足音が近づいてきています。11月は亡くなった方を思う月です。2日(火)の追悼の祈りで、心を合わせてお祈りしたいと思います。

Congratulations!!

◎ 読売新聞社主催

第71回全国小・中学生作文コンクール(北海道)

佳作 中1-1 鈴木 瑠菜さん

◎ 第67回札幌市読書感想文コンクール

札幌市学校図書館協議会会長賞

高2-S 目良 茉莉香さん

北海教育評論社賞 高3-S 若林 星渚さん

梅干し弁当募金

10月20日(水)の梅干し弁当募金では**総額 45,333円**を寄付していただきました。中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成された国際NGO(NPO)団体であるベルシャワール会にお送りしました。ご協力ありがとうございました。

修養会

10月14日(木)に母の会修養会、14日(木)・15日(金)に中1・中2修養会、15日(金)に高3修養会が行われました。中1はSr.田口と松村繁彦神父様に、中2はSr.竹内に、母の会と高3は林尚志神父様に、それぞれご指導いただきました。



11月の予定



	行事	お弁当
1(月)	授業研究ウィーク②	要
2(火)	オンライン全校朝礼(追悼の祈り) 母の会聖書サークル③(10:30~、Sr.田口)	要
3(水)	文化の日	
4(木)	中3 職場体験 中1・高1 X線・心電図検査	要
5(金)	高1・高2 進研模試	要
6(土)	高1・高2 小論文講習③(3校時) 父の会聖書サークル(16:00~17:30)	※
7(日)	英検2次	
8(月)		要
9(火)	中学 球技大会 高校 通常授業	※
10(水)		要
11(木)	梅干し弁当募金⑥	梅弁
12(金)	ピアサポートワークショップ(16:15~)	要
13(土)	生徒家庭学習 小6対象入試対策講座②(9:00~12:30) 母の会幹事会④(10:00~11:30)	
14(日)		
15(月)		要
16(火)	オンライン全校朝礼(聖フィリピン・デュシェーン) 母の会聖書サークル③(10:30~、Sr.井出)	要
17(水)	考査時間割発表 課題研究ミーティング⑦	要
18(木)	聖フィリピン・デュシェーンの祝日	要
19(金)		要
20(土)	高1・高2 小論文講習④(3校時)	※
21(日)		要
22(月)		要
23(火)	勤労感謝の日	
24(水)	後期中間考査 高校①/中学①	※
25(木)	後期中間考査 高校②/中学②	※
26(金)	後期中間考査 高校③/中学③	※
27(土)	後期中間考査 高校④ 中学 特別時間割 中1 哲学講座	※
28(日)	待降節 第一主日	
29(月)		要
30(火)	高校 球技大会 中学 通常授業	※

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

行事予定はあくまで暫定のもので、ご了承ください。
 変更については一斉メール等でご連絡いたします。

今月の聖句

闇の中を歩む民は、光を見た。

イザヤ書 9章 1節

クリスマスに生徒たちが英語で暗唱するイザヤの預言のこの一節は、遠い昔の出来事ではなかったと感じる今日この頃です。

「起こる出来事をどのように受け取るかで人生が変わってきます。」と常々言っている私ですが、閉校にいたる理由は、頭ではよくわかっている、心が「なぜ！」と叫ぶ思いの中で、先日を発表を迎えました。

その後、保護者、卒業生、そのご家族の皆様からメールやお便りをいただきました。どのお言葉にも、私を導く光がともっていました。ある生徒のお母様からは、虹の写真が届きました。

「保護者会の間に、『札幌での学びを生かし、世界に開かれた窓からよくよく見渡してご覧下さい。こんなにも可能性に満ち溢れている』と声が聞こえました。窓の方を見ると、外には綺麗な虹が掛かっておりました。学校の歴史が終わりましても『札幌聖心で生まれたたくさんのご縁と学びは永遠に滅びることはないのだ』とはっきりと声を聞いたのです。親子共々学びを深め、世界中に愛を届けることができるよう邁進していきたいと

思います。」写真を眺め、大事な一人ひとりの生徒の未来には必ず希望の虹がかかっていると確信しました。

ある卒業生のお母さまは、前に進めるようにと激励で歩みを照らしてくださいました。

「札幌聖心が使命を終えることを知り、私もショックで呼吸が上手く出来ないほどです。でも、私はまず感謝します。素晴らしい学校や人々と出会えたことに。悲しむより感謝します。幸せを感じていたから悲しみが生まれます。送り出した 5000 人以上の生徒は世界中で頑張っています。負の感情からは負の連鎖しか生まれません。ご自分が人生を掛けて頑張られた札幌聖心という学校。素晴らしさを認め、顔を上げしっかりと前を向いて、これから向かうべきことに皆で力を合わせ立ち向かいましょう。」

そして生徒たちの言葉。「学校がなくなっても札幌聖心は私の心の母校であり、聖心の教育は私の心の軸であり、札幌聖心での思い出はずっと心に残っています。苦渋の決断であったと思いますが、私たち生徒はみな、ほんとうに大きな愛をここでいただきました。ありがとうございます。」教職員、修道院一同の歩みに光が差し込みました。

これらの光に導かれ、残るいのちを燃やして託された生徒たちのために尽くし、卒業生とそのご家族のために祈りつつ歩みたいと願います。

[チャプレン Sr.田口保子]

